

お 泉 水

2004年3月25日

◆平成15年度全国図書館大会

11月27・28日、静岡市において「創めよう！図書館の世紀 ～知・人・夢づくり～」をテーマに全国図書館大会が開催された。参加者は2,433名で、本県からも6名が参加した。

第1日目は、開会式、表彰式に続き、日本図書館協会理事長から資料費削減や委託問題等、図書館が置かれている厳しい現状についての基調報告があった。

つづいて、「生きることと表現すること」と題して、明治大学教授の斉藤孝氏とヴォーカリストの鈴木重子氏による講演、独唱、対談があり、参加者を巻き込んだの輪読や合唱など、会場は終始熱狂に包まれていた。

2日目の分科会（児童青少年サービスの第2分科会）では、児童文学作家の清水達也氏、童話作家の荒川薫氏、調布市立図書館の黒沢克朗氏による講演、提言などがあった。その中で、荒川氏は、学校、図書館等でのボランティアによる読み聞かせの弊害を厳しく指摘するとともに、選書の大切さを強調し、読み聞かせとは「子どもたちに読書の喜びをもたらし、愛を伝え、ことばを持ち、生きる力を育むこと」であると結んだ。

（清水町立図書館 松原 和子）

◆平成15年度日本図書館協会地方講習会 に出席して

「感わされることなく」

演題「図書館運営に生かすPR」日本経済団体連合会社会本部情報メディア長・村橋勝子氏の講演内容は大変興味深く、その内容は次のようなものであった。上部組織と利用者へのPRはその違いをよく把握したうえで行わなければならない。上部組織へは「経営資源獲得」「イメージ改善」等を、データだけでなく「意味づけ」「業績転換」し、相手（ポスト）に合わせた説明をする。また専門用語を使用しないことや大きな会議での発言の重要性など、決定権を有する管理職の行動なしでは進展がないことを自らの経験を基に話された。利用者へのPRとしては、個人に向けた具体的な利用方法の案内書作成やHP作成等、ターゲット（年齢）毎に狙いを定め展開する必要性を話された。利用者からは常に多くの要望が出されるが、利用者というものは図書館の表面上のことしか見ておらず、それらに個々に対処しようとするのは自分で自分の首を絞めるのと同じことであり、全体をよく把握したうえで、感わされることなく、図書館員としての確固たる信念の上で業務を遂行していかなければならないということを力強く話されたのが印象的であった。

（敦賀市立図書館 小泉美喜男）

◆平成15年度全国公共図書館サービス部門研究集会 —市町村合併と図書館サービスの再構築—

我が図書館は今後どのように対処しなければならないのかという問題意識を持ってこの大会に参加した。

現時点でも図書館という位置は充分確立しているとは思えず、まして合併となると大枠の中でしか位置付けられない。そのためにも「図書館相互の話し合いと行政に対する先手のアピール、モチベーションを上げるための方法が将来の図書館を左右する」という事例発表が大変参考になった。

えてして我が田への利潤追求のエゴが見え隠れする合併問題。そんな中で、未来の図書館は、お互いの枠を超えたグローバルな観点から、まずは、直面している問題解決のために後手後手方策にならぬようにするのが、現図書館員に課せられた責務であるとも言える。図書館員同士が積極的に疎通を図り、十分な将来的ビジョンを持ち、行政へ主張して今こそ図書館充実の最良の機会にしなければならないと思う。

何かと話題の多い片山知事の鳥取県。山々を抜けると品格のある市街が広がっていた。研修後わらべ館を見学。意義ある2日間だった。

（今立町立図書館 為沢さち子）

◆平成15年度全国公共図書館総合・経営部門研究集会

9月25日・26日の両日、水戸市において平成15年度全国公共図書館総合・経営部門研究集会が開催された。参加者は261人で、本県からは3名が出席した。1日目は筑波大学図書館情報学系教授葉袋秀樹氏による基調講演「多様なニーズに応える図書館経営のあり方」の後、事例発表が行われた。内容は①「市民との協働による図書館運営を目指して」②「著作権法改正に関する最新動向—書籍等の貸与に関わる補償金問題—」③「横浜市中央図書館における『企画運営課』の業務と『庁内情報拠点化事業』について」であった。2日目は前日の事例発表を踏まえて分科会に分かれ研究・協議が行われた。参加した①分科会では図書館と市民参加型NPO、ボランティアとの関係・運用について多くの質疑応答があり、各図書館の関心の高さが窺えた。図書館に対する市民のニーズは多様化し高度なレベルに達している。司書の専門性を高め、質的サービスを向上させていくためには、自ら課題を見出し、解決方法を探って行かなければならない。そのためには市民参加型NPOやボランティアと協働することは一つの可能性であると感じた。

（福井市立みどり図書館 銅子 留美）

新築図書館紹介

福井県視覚障害者福祉協会 情報提供センター



(福) 福井県視覚障害者福祉協会 情報提供センターは昭和33年身体障害者授産施設光道園に併設されて設立され、昭和48年の法人認可と同時に福井県視覚障害者福祉協会に移管されました。以来、今日まで視覚に障害を持った人々への読書の保障、情報提供及び更正相談を目的として運営されてきました。

平成15年4月には「福井県視覚障害者情報文化会館」が新築され、点字図書館から情報提供センターに名称を変更いたしました。建物は、鉄筋コンクリート造3階建て、点字図書製作室、点字出版室、点字校正室、録音図書製作室、デジタル編集室、録音室(5室)、書庫、閲覧室、研修室、その他調理実習室など訓練室を完備し延床面積は956.9㎡となっています。

一般の公共図書館との違いは、資料を当センターで製作しなければならない点で、そのため点訳奉仕員、音訳奉仕員を養成するボランティア養成事業を行いボランティアの方々に資料を製作していただいております。

IT化が声高に提唱される中、視覚障害者の日常生活においても、コンピューターが情報摂取の手段として有効な道具として使われるようになってきており、現在、全国視覚障害者情報提供施設連絡会では、加盟団体をオンライン・ネットワーク・システム「ないぶネット」で結び、施設間の相互協力によって、蔵書が量的、質的に確保されることになり、個人利用者(視覚障害者)への提供が可能になりました。

当センターにおきましてもこのシステムを利用して尚一層のサービス充実を図って参りたいと考えております。

平成15年度東海北陸地区図書館地区別研修

平成15年11月11日～14日の4日間、東海北陸地区図書館地区別研修が石川県青少年総合研修センターにおいて開催された。

高度な情報化が急速に進む中、情報検索の拠点としての図書館はどうあるべきかを色々な角度から考えさせる研修テーマとなっていた。

私が参加したのは第3日目の研修会で、図書館界の第一人者である講師陣3名の講義を聞いた。

まず、竹内紀吉氏は『図書館司書の役割と専門性』と題し、千葉県浦安市立図書館での経験を基に、図書館の利用対象と取り扱う資料の「無限定性」(だれにでも求められるものをあらゆる手段で)、そしてそれを実現させるため攻撃的な図書館運営の必要性を話された。

次に野末俊比古氏が『情報探索と情報利用』で、「情報リテラシー」の育成・向上を図書館が支援していかな

ければならないことを、最後に葉袋秀樹氏が『図書館サービスとカウンター業務』で、具体的にモデルを挙げ、レファレンスサービスと読書案内に重点を置いた図書館がこれからの望ましい形ではないか、そしてその実現のためには、司書職制度の確立が必要不可欠であると話された。

講義を聞いて思ったのは、図書館が求められているもの、あるいは図書館が発信しなければならないものが、大きく変化してきているということだ。そしてそれに応じて図書館職員は、日々資質向上を図らねばならないと感じた。

(丸岡町民図書館 山田 尚子)

公共図書館コンピュータ化推進協議会研修会

ICチップは夢の技術～未来がやってきた！～と勝手に副題をつけてみた。おお、すごい、こんなことできるんだ、と興味津々。テーマは「ユビキタスで変わる図書館 無線ICチップの図書館での応用」ユビキタスって？何。聞いたことはあるけど詳しいことは解らず、話を聞いても理解できるかどーか。とりあえず、図書館のIT化は今後ますます進むことは予測される。でICチップを図書館で使うとどうなるか。職員の単純業務が軽減される。1枚のICタグで図書に関わることが管理できる。貸出の迅速化・自動化、無断持出防止ゲートとの連動、蔵書点検の大幅効率化、誤配置図書のサーチ。ICシステムへの期待として自動化（無人化）、セキュリティ、バリアフリー、業務効率化。図書館側の利点だけでなく、利用者にとっても利点は多い。今後更なる研究開発とコストの削減が進み、ICチップ導入が全国の図書館に広がるのは時間の問題であろう。ただし、あくまでも図書館の単純作業が軽減されるのであって、司書の専門分野の質の向上はさらに求められるものである。行政の理解と協力がなければ、ただの貸し本屋になってしまう危険性も十分持ち合わせているといえる。まずは、行政への説得か。これが一番の難関かもしれない。図書館の質を向上する為のICチップであって、ICチップで管理されるだけの図書館なんていない。

(松岡町立図書館 森山 陽子)

平成15年度図書館等職員著作権実務講習会

平成15年8月27日から29日までの3日間、岡山大学において文化庁主催による図書館等職員著作権実務講習会が開催された。講義は著作権の仕組みや基礎的な知識に加え、視聴覚資料を利用する際の制限や国際的に交わされてきた著作権条約の現状など、幅広い内容について質疑応答を交えながら進められた。

形態も内容も多岐にわたる著作物について、著作権者が持つ権利は様々である。著作物を複製する方法も、携帯電話のカメラで撮影したデータを誰にでも簡単に送信することができる今、無自覚に著作権を侵害してしまうようなケースはその手段の多様化とともに増加している。許可されているかどうか曖昧な著作物の使用については、その都度著作権者に確認を取るべきである。

慶應義塾大学の糸賀雅児教授が「図書館の将来と著作権のあり方」というテーマで講演された。昨今、どの自治体も財政難に見舞われ、図書館も資料費・人件費不足にあえいでいる。限られた条件の中で、資料一点当たりの利用を延ばすかが図書館の課題であり、利用者に必要とされる知識を積極的にナビゲートしていくことが大切である。近年、貸本業が開始されたが、営利目的で行われる貸本と図書館サービスの差異をいかにして作り出していか、明確な目的意識を持つ必要性を強く感じた。

(福井県立図書館 東 沙織)

平成15年度福井県学校図書館協議会この一年

- 4月～9月 第29回県小学生読書感想文コンクール
(福井新聞社主催)
- 5月16日(金) 第1回県学校図書館協議会役員会
- 5月28日(木) 第11回全国学校図書館協議会総会
- 6月～10月 第49回青少年読書感想文全国コンクール
(全国SLA・毎日新聞社主催)
- 6月3日(火) SLBC(学校図書館ブッククラブ)
加入申込 前期締切(42校加入)
- 6月5日(木) 第1回県学校図書館協議会理事会
- 7月15日(木) 第2回県学校図書館協議会役員会
福井県学校図書館研究大会運営委員会
- 8月5日(火) 第13回学校図書館夏期セミナー
- ～8月6日(木)
- 8月7日(木)
- ～8月8日(木) 第38回近畿学校図書館研究大会
(兵庫大会)
- 9月～1月 第15回読書感想文中央コンクール
(全国SLA・毎日新聞社主催)
- 9月11日(木) 学校図書館県研究大会役員会
- 10月15日(火) SLBC(学校図書館ブッククラブ)
加入申込 後期締切(40校加入)
- 10月23日(木) 第36回福井県学校図書館研究大会
(鯖丹大会)
- 2月5日(木) 第12回全国学校図書館協議会総会
都道府県SLA事務局長会議
- 3月1日(月) 「福井県の学校図書館 第49号」発刊
- 3月11日(木) 会計監査
(福井県学校協議会事務局 辻 教一)

平成16年度研究集会および研修会(予定)

区 分	開催地	期 間
全国図書館大会	香川県 高松市	2004年10月27日 ～29日
全国公共図書館研究集会 サービス部門	岩手県 盛岡市	2004年10月7日 ～8日
全国公共図書館研究集会 児童・青少年部門	福井県 福井市	2004年11月25日 ～26日
全国公共図書館研究集会 総合・経営部門	鹿児島県 鹿児島市	2005年1月27日 ～28日
日本図書館協会地方講習会	石川県	2004年11月11日 (予定)
東海北陸地区公共図書館 司書等専門研修	愛知県	秋
東海北陸地区公共図書館 研究集会	富山県	未定

平成15年度県外研修参加者名簿

研 修 名	開 催 日	場 所	図 書 館 名
第1回ILLシステム講習会	5/22・23	東 京	福井工業高等専門学校図書館
公立大学協会図書館協議会総会事務長会	5/29・30	大 阪	福井県立大学情報センター
第2回目録システム(図書コース)講習会	6/25~27	東 京	福井工業高等専門学校図書館
中部ブロック点字図書館連絡協議会ボランティア研修会	6/27	愛 知	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
児童図書館員養成講座	6/30~7/5,9/24~10/3	東 京	県立図書館
私立短期大学図書館情報担当者研修会	7/10・11	京 都	仁愛女子短期大学附属図書館
東海北陸地区著作権セミナー	7/24・25	愛 知	仁愛女子短期大学附属図書館 敦賀市立図書館
公立大学協会図書館協議会研修会	7/31~8/1	滋 賀	福井県立大学情報センター
高等専門学校および技術科学大学図書館情報シンポジウム	7/31~8/1	新 潟	福井工業高等専門学校図書館
北信越地区医学図書館員研修会	8/5・6	新 潟	福井大学医学図書館
第13回学校図書館夏期セミナー	8/5・6	滋 賀	福井県学校図書館事務局
第38回近畿学校図書館研究大会	8/7・8	兵 庫	福井県学校図書館事務局
第64回私立大学図書館協議会総会・研究大会	8/20・21	東 京	仁愛大学附属図書館 福井工業大学図書館
図書館員等職員著作権実務講習会	8/27~29	岡 山	県立図書館 福井大学医学図書館
大学図書館司書主務者研修会	8/27~29	京 都	仁愛大学附属図書館
中部ブロック点字図書館連絡協議会点訳担当職員研修会	9/8・9	静 岡	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
中部ブロック点字図書館連絡協議会音訳担当職員研修会	9/8・9	静 岡	福井県視覚障害者福祉協会情報提供センター
短期大学図書館全国研修会	9/11・12	愛 知	仁愛女子短期大学附属図書館
第3回目録システム(雑誌コース)講習会	9/17~19	東 京	福井工業高等専門学校図書館
私立大学図書館協会西地区部会研究会	9/19	岡 山	福井工業大学図書館
「医中誌Web Ver3」説明会	9/25	愛 知	福井県立大学情報センター
全国公共図書館総合・経営部門研究集会	9/25・26	茨 城	県立図書館 若狭図書学習センター 福井市立みどり図書館
日本図書館協会地方講習会	10/2	岐 阜	県立図書館 若狭図書学習センター 敦賀市立図書館
国立情報学研究所 大学図書館等関連事業説明会	10/3	京 都	敦賀短期大学図書館
第1回阪神地区研究会	10/6	京 都	仁愛大学附属図書館
国立情報学研究所大学図書館等関連事業	10/8	京 都	福井県立大学情報センター
第4回目録システム(図書コース)講習会	10/8~10	東 京	仁愛大学附属図書館
全国公共図書館サービス部門研究集会	10/9・10	鳥 取	若狭図書学習センター 福井市立図書館 鯖江市図書館 丸岡町民図書館 今立町立図書館
中部地区学校図書館活用フォーラム	10/23・24	滋 賀	県立図書館 若狭図書学習センター 福井県学校図書館事務局
市民のための著作権講座	10/24	石 川	鯖江市図書館
日本図書館協会短大・高専図書館部会ワークショップ	10/28	東 京	仁愛女子短期大学附属図書館
図書館総合展	11/4~6	東 京	県立図書館
私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会研修大会	11/8	京 都	仁愛大学附属図書館
北信越地区国立大学図書館研修会	11/10・11	石 川	福井大学医学図書館
国立情報学研究所 目録システム(雑誌コース)講習会	11/10・11	東 京	福井大学附属図書館
東海北陸地区公共図書館等専門研修	11/11~14	石 川	県立図書館 若狭図書学習センター
東海北陸地区図書館地区別研修	11/12・13	石 川	大野市図書館 丸岡町民図書館
大学図書館職員講習会	11/11~14	大 阪	仁愛女子短期大学附属図書館
私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会主題別研究会B(業務)	11/14	京 都	福井工業大学図書館
私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会研修大会	11/18	京 都	福井工業大学図書館
図書館活動研究大会	11/19	岐 阜	県立図書館 丸岡町民図書館
アジア情報研修	11/19・20	京 都	県立図書館
石川県図書館大会	11/21	石 川	県立図書館
全国図書館大会	11/27・28	静 岡	県立図書館 若狭図書学習センター 福井工業高等専門学校図書館 丸岡町民図書館 清水町立図書館
私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会主題別研究会A(書誌)	11/28	京 都	福井工業大学図書館
北陸公共図書館コンピュータ化推進協議会研修会	12/3	石 川	県立図書館 松岡町立図書館
東海北陸地区公共図書館研究集会	12/4・5	愛 知	県立図書館 丸岡町民図書館
都道府県職員のための図書館づくりセミナー	12/5	東 京	県立図書館
国立情報学研究所公開講演会	12/5	京 都	福井大学医学図書館
第16回国立大学図書館協議会シンポジウム	12/8・9	兵 庫	福井大学附属図書館
Global ILL Framework(GIF)と画像電送システムの活用研修	12/19	京 都	福井大学医学図書館
図書館づくりセミナー	1/22	東 京	県立図書館
レファレンス研修	2/19・20	東 京	県立図書館